

ユネスコ エコパークを知ろう!

ユネスコエコパークとは、人が自然を守りながら、自然について学び、自然と共に生きていく社会の世界的なモデルであると、ユネスコが認めたエリアのことです。

正式名は、「生物圏保存地域(Biosphere Reserves)」といいますが、日本では親しみをこめて「ユネスコエコパーク」と呼んでいます。

2021年10月現在、ユネスコエコパークの登録件数は、131か国727件、日本国内では10か所が登録されています。みなかみユネスコエコパークは、2017年6月に登録されました。

目的は?

生物多様性を守り、人と自然がずっと共生できる地域づくりを目指し、未来に伝えていくことが目的です。

世界遺産と同じ?

同じユネスコで似ていますが、エコパークは世界遺産ではありません。世界自然遺産は、貴重な自然を守ることを目的とした「価値を保存するための制度」です。一方、エコパークは、生態系を守るだけでなく、人間社会と共生することを目的とした「価値を創造するための制度」です。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



ユネスコエコパークは、国連が定めるSDGs(持続可能な開発目標)に貢献しています。



Minakami
Biosphere Reserve

みなかみ
ユネスコ
エコパーク

核心地域

手つかずの原始的な
自然環境が残るエリア



緩衝地域

環境教育・調査研究等が
行われるエリア



いかす

みなかみ町は、
自然とふれあい楽しむ取組も充実!

登山やハイキング

日本百名山が5つもあります

アクティビティ

スキーやラフティングなどのアウトドアスポーツ

温泉

源泉数は群馬県第1位!

移行地域

豊かな自然の中で持続的な経済活動を行うエリア



1 利根川源流の町

みなかみ町最北端「大水上山」に積もった雪が解けだして一滴の水になります。その水が集まって、利根川がはじまります。利根川水系は、1都5県約3,000万人の人々の暮らしを支えています。その利根川のはじまりを、みなかみ町の雄大な自然が生み出しています。

3 森の生きものたち

みなかみの森には、たくさんの動物や植物・昆虫・微生物などが暮らしています。日本に約500羽しかいないイヌワシや、クマタカといった絶滅危惧種の大型猛禽類も生息しています。森の生態ピラミッドの頂点に立つ大型猛禽類が生活しているということは、その食物連鎖にかかわる全ての生きものと、気候や水など、森全体の豊かな自然が守られている証です。



みなかみって こんなところ!

ホンバヒナ ウスユキソウ

谷川岳と至仏山にしか咲いていない花



ユビソヤナギ

湯檜曽川で発見された絶滅危惧種



2 貴重な高山植物

中央分水嶺の線上に位置する谷川連峰のふもとにあるみなかみ町は、日本海側と太平洋側の両方の気候の影響を受けるため、年間の気温差が大きく、四季の変化を豊かに感じることができる地域です。また、特徴的な地形・地質にもよって、みなかみ町では貴重な高山植物を見ることができます。

まもる

みなかみ町には、
貴重な自然を未来に残す活動をしている人がたくさんいます!

赤谷プロジェクト

人工林を自然林に戻すことやイヌワシの生息環境の向上等の取組

エコツーリズム

電気バスやエコツアー、外来生物の除去など

環境整備

ホテルが住みやすい環境整備や、茅場文化の再生など

ひろめる

みんなでできることを
やってみよう!

ふれよう

自然の中で暮らす生きものを見つけ観察してみよう!

まもろう

生きものが住むことのできる環境を守ろう!

広めよう

生物多様性について話し合ったり、分からないことがあったら、調べたり、聞いてみよう!

食べよう

地元で採れたものを食べよう!

世界中から愛されるみなかみに!

みんなで「みなかみ」をまもり、いかし、ひろめ、みなかみユネスコエコパークを育てていきましょう。

